



## 1. 多摩六都科学館の概要



多摩六都科学館は、多摩六都圏域の5市（小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市）が共同で設置し、管理運営する地域のための科学館です。

多摩六都科学館は、田無市（現西東京市）芝久保町に建設され、平成6（1994）年3月1日に開館しました。電波塔「スカイタワー西東京」（通称田無タワー）が隣接しており、地元のシンボリック的存在です。

多摩六都科学館のプラネタリウムは、世界最大級の直径27.5mの傾斜型ドームで、CHIRON II（ケイロンII）という1億4000万個の星々を映し出す投影機を有しており、スタッフによる生解説やオリジナルプログラムも充実しており、ハード・ソフトともに世界規模で誇れる科学館事業を行っています。また、「体験とコミュニケーション」を重視した、見るだけではない体験型ミュージアムとなっており、ボランティア活動も盛んな地域の科学館として多くの市民から支援されています。

近年は、子どもだけでなく、大人向けや乳幼児向けのプログラムやソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）の視点からの「おもいやりプラネタリウム」や「やさしい日本語」にも取り組んでいます。

平成26（2014）年度からは、科学館事業の他に、「たまとくウィーク」などの地域拠点事業にも取り組み、企画展などを通して地域資源の価値発信にも努めています。



## 2. 基本計画策定の背景と位置づけ

### ■多摩六都科学館における基本計画の位置づけ

多摩六都科学館基本計画は、多摩六都圏域における科学館の使命を明確にし、管理運営の基本方針と事業の体系を表す10カ年の計画で、科学館運営の指針として位置づけられるものです。

多摩六都科学館では、これまで第1次（2004年度～2013年度）、第2次（2014年度～2023年度）の10カ年の計画を策定し、目標の達成ならびに課題解決をめざして、市民とともに活動を行ってきました。次期10年（2024年度～2033年度）においても、多摩六都科学館の関係者とともに使命を共有し、活動を行っていくことができるよう「第3次基本計画」を策定することとしました。

### ■「多摩六都科学館第2次基本計画」の特徴

平成25（2013）年度に、多摩六都科学館基本計画策定委員会を設置して、「第1次基本計画」の検証と現状分析から課題を抽出し、使命・目標の見直しや、評価制度と連動した計画の検討に取り組み、事業評価を導入しました。基本計画に掲げた使命ならびに事業目標の達成度や事業の取組姿勢・進捗状況が検証可能な中長期の目標管理システムの構築をめざしました。評価結果を事業の修正、翌年度の予算編成や事業計画に反映させ、計画(Plan)-実行(Do)-評価検証(Check)-改善(Action)のPDCAマネジメントサイクルを機能させ、継続的な業務改善・サービスの向上が図られるよう努めました。また、評価結果を公表することにより、構成市ならびに圏域市民に対して、公の施設としての社会的説明責任を果たし、公的事業の透明性を図っています。

平成24（2012）年度から指定管理者制度を導入したことに伴い、新たな管理運営体制を前提とした事業スキームに改定しました。

### ■「多摩六都科学館第3次基本計画」策定の経緯

圏域5市の状況などを踏まえ、「第2次基本計画」では、「地域の生涯学習の拠点構築」「利用者の体験学習の更なる充実」「運営の効率化の推進」「少子・高齢社会への対応」「アクセスの向上」「学校教育との連携」等を検討課題として取り組んできました。平成28（2016）年度策定の「多摩六都科学館ローリングプラン2016」では、ソーシャル・インクルージョンの観点から「誰もが」科学館のサービスを楽しむよう努めてきました。

「第3次基本計画」では、引き続き圏域5市の「少子高齢化」「人口減」「地球環境の変化」「技術革新」「経済格差」「体験格差」「多文化共生」などの地域の課題にも取り組んでいきます。

また、平成5（1993）年8月に制定した「多摩六都科学館の設置及び管理に関する条例」の設置目的には、「次代を担う子供たちの夢を育み、科学する心を養うとともに、各世代にわたる生涯学習の推進を図り、文化の振興に寄与するため、多摩六都科学館を設置する。」とあります。この設置当初の目的を達成できるよう、新たな評価制度を構築し、定期的に事業の検証をしつつ、科学館を、そして圏域社会をさらに成長・発展させていくために「多摩六都科学館第3次基本計画」を策定します。



3. 「多摩六都科学館 第2次基本計画」の検証 計画期間：平成26（2014）年度～令和5（2023）年度

多摩六都科学館の目標			中長期事業評価（外部評価）				9カ年の達成状況	課題・今後の方針	
			1期	2期	3期	長期			
使命	多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいたいと思える多様な「学びの場」をつくりあげていきます。そして、多摩六都科学館は、活動の幅を広げ、皆さんをつなぎ、「地域づくり」に貢献することをめざします。		A+	A+	A+	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幅広い年代層やソーシャル・インクルージョンの観点からの取り組みによって多様な「学びの場」をつくりあげ、市民ニーズとも合致し支持を得ている。</li> <li>●3期はコロナ禍であったが、オンラインでの配信などを行い、「学びの場」を継続的に提供し続けた。今後に活かせるコンテンツやノウハウも獲得できた。</li> <li>●地域連携による企画展や「たまろくとウィーク」などのイベントなどの取り組みによって、地域資源の価値発信の場として周知され、地域から頼られる存在となった。</li> <li>●圏域市民や利用者に科学館が地域への貢献をめざしていることが浸透してきている（付帯資料4,5頁参照）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域拠点事業によって、多摩六都科学館の存在価値が高まり、支援者も増えたが、活動が多岐に亘り、現場スタッフが疲弊してきている。事業の棚卸しや整理が急務となっている。事業受け入れのルールをつくり、関係者間で共有する必要も出てきている。</li> <li>●大上段に「地域づくり」をめざすのではなく、文化に絞って立て直しが必要。地域拠点事業の目標を見直す。</li> <li>●「自分たちで活動する」から、「活動の場を提供する」に移行する時期に来ている。</li> <li>●行政と圏域社会・市民をつなぐ役割、ソーシャル・インクルージョンに基づく活動は、市民ニーズから継続。</li> </ul>	
事業目標	1	科学館事業（中核事業）	多様な学びの場の創出	A+	A	A+	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身近な視点から科学を楽しめる多様な「学びの場」を創出。</li> <li>●コロナ禍であっても、コミュニケーション重視による体験型プログラムの充実を図った。</li> <li>●「おもいやりプラネタリウム」に加え、「0歳からのプラネタリウム」、「大人向けプラネタリウム」なども開催し、高評価を得ている。</li> <li>●「やさしい日本語」については、日々の業務の基本姿勢として定着しつつある。</li> <li>●令和2（2020）年、博物館相当施設に指定された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「体験とコミュニケーション」重視の方向性は、他館との差別化のためにも継続し、計画内に明記。</li> <li>●基本理念の「専門性とエンジョイメントの両立」は現場で活動指針になっているので明記。</li> <li>●高齢社会のニーズに沿う健康や食の他、歴史やアートなど、多様なテーマを科学的な切り口で事業を展開することも継続。</li> <li>●オンライン事業のための設備やシステムの整備など、デジタル化の推進が必要。</li> <li>●博物館相当施設として、活動環境と収蔵庫の整備が急務。</li> </ul>
	2	地域拠点事業	多摩六都の交流拠点	A+	A+	A+	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大人ボランティアやジュニアボランティアが科学館運営のパートナーとして成長し、科学館が生涯学習・社会参加の場として機能している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩北部都市広域行政圏協議会が令和3（2021）年3月策定した「多摩六都広域連携プラン」の中でも、多摩六都科学館は地域の文化拠点として期待されている。</li> <li>●子どもたちだけでなく多くの市民の第3の場（家、学校／職場、科学館）としての機能も視野に入れて活動。</li> </ul>
	3		多摩六都の魅力発信	A+	A	A	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域連携・協働による企画展やイベントなどの開催によって地域の魅力発信に貢献していると事業パートナーから高い評価を得ている（付帯資料4,5頁参照）。</li> <li>●研究機関との協定先も徐々に増え、現在は10箇所。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●圏域全体の地域資源の発掘・価値づけ・情報発信は、事業目標（第3次では将来像に変更）として1本立てるのではなく、科学館事業（中核事業）の成果の公開として継続。</li> <li>●事業パートナーとの良好な関係を維持。</li> </ul>
	4	マーケティング	愛着の持てるロクト*1へ	A	A	A	A+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●圏域市民の知名度・利用度は高まったが、コロナ禍で体験できない展示が増えたことで満足度は低下（付帯資料2頁参照）。</li> <li>●平日利用促進策への積極的な取り組みは成果を上げている。</li> <li>●継続的に市民意見を反映できる市民モニター制度を導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調査結果では知名度・利用度は高まっているが、まだまだ伸ばせる余地がある。圏域市民全員に「地域の科学館」として認識してもらえる存在をめざす。</li> <li>●未利用者などマーケティング調査が不十分。今後の課題。</li> <li>●駅から科学館までのアクセス改善に継続的に取り組む。</li> </ul>
	5	財政計画・体制整備	持続可能なしくみづくりを	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場の整備、はなバスルートの変更、優秀なスタッフの確保など順調に進んでいる半面、自主財源の確保、スタッフの世代交代、雇用環境の改善などの課題も見られる。</li> <li>●施設・設備・展示の老朽化が大きな課題。改修費の財源確保が大きな課題であったが解決できないまま持ち越し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設・設備・展示などの改修費の財源確保が急務。科学館が持続可能な危機的状況。最重要課題。</li> <li>●財源も体制整備も制度も含め「しくみ」から見直しが必要。</li> <li>●多摩六都科学館の関係者とともに解決策を講じることが急務。</li> </ul>

段階評価の基準 A++: 優良 A+: 良好 A: 適正 B: 改善 C: 見直し

\*1: 2012年度に指定管理者が設定した愛称。ロクトの他に Rokuto と表記する場合もある。この愛称は館の関係者間で定着しつつあるので第2次基本計画で採用した。



4. 「多摩六都科学館 第3次基本計画」 骨子

<p><b>使命 Mission statement</b> めざすべき方向性・社会的な役割</p>	<p><b>多摩六都科学館の将来像 Vision</b> これから10年めざす施設の方向性</p>	<p><b>重点戦略 Strategy</b> 将来像を実現させるための取り組み指針</p>
<p><b>多摩六都科学館は、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいたいと思える多様な「学びの場」を地域の皆さんとともに作りあげ、地域の文化振興に寄与することをめざします。</b></p> <p><small>*多摩六都科学館は、多摩六都（小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市）の五市によって運営されている科学館です。</small></p>	<p><b>将来像1 多様な学びの場の創出</b> 多摩六都科学館は、誰もが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。さらに、地域資源の価値発信にも努めていきます。</p> <p>→10年後のアウトカム：誰もが科学の楽しさを体験し、新たな価値を発見し、科学の視点で世界を見ることができる</p> <p><b>将来像2 多摩六都の交流拠点</b> 多摩六都科学館は、世代を超えて交流し、生涯学習や社会参画の場として活用できるよう、地域みんなに開かれた交流拠点をめざします。</p> <p>→10年後のアウトカム：科学館が地域の交流拠点として、利用者や市民が自己実現を叶えることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者から支持の高い「体験とコミュニケーション」については、今後も科学館の特徴として事業を展開する。</li> <li>● 世代や国籍などに係わらず誰もが、「多様な学びの場」を楽しめよう、これまで同様、ソーシャル・インクルージョンの観点から取り組みを継続実施する。</li> <li>● 「専門性とエンジョイメント」を両立させた事業や「圏域の地域資源の価値を発信」する活動についても、強化しながら継続的に実施する。</li> <li>● 様々な分野の協力者とともに、世界最大級かつ高機能の投影機を有するプラネタリウムをはじめとする科学館の資源を最大限に活かした活動に取り組む。</li> <li>● 収集・保存・調査研究の体制整備や収蔵庫などの基盤整備に努める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 圏域の皆さんが、子供から大人・親になるなど、世代や立場を変えつつも人生を通して、科学館を利用して活動できるような交流の場を提供していく。</li> <li>● 次代を担う子どもたちだけでなく、幅広い年齢層が生涯学習の場として利用できるよう、ソフトの充実に努める。</li> <li>● ボランティア活動（大人・ジュニア）は新規メンバーの加入に努めながら、圏域市民の社会参画の場となるよう、さらに強化しながら継続的に活動を展開する。</li> <li>● 市民とともに圏域の価値を発信していくイベントなどを実施し、5市の交流拠点としての機能を高めていく。</li> <li>● 圏域市民が科学館を気軽に誰もが利用できるよう、しくみや設備などの環境整備に努める。</li> </ul>
<p><b>多摩六都科学館がめざしたい 圏域の将来像 Vision</b> 30年後の長期的アウトカム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 圏域の多くの人々が、科学リテラシーを高め、地域の魅力や価値に愛着を感じ、より豊かな人生を過ごすことができる社会</li> <li>● 圏域全体の魅力が高まり、圏域全体が潤う社会</li> </ul>	<p><b>将来像3 愛着の持てるロクトへ</b> 多摩六都科学館（愛称：ロクト,Rokuto）は、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となり、利用者や地域の皆さんとのよりよい関係づくり（パブリック・リレーションズ）をめざします。</p> <p><b>将来像4 持続可能なしくみづくりを</b> 多摩六都科学館は、ソフト・ハード両面の改善が推進できる健全な財政計画や体制整備を実現し、持続可能な地域の科学館をめざします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 圏域市民の知名度・認知度・利用度をさらに高めていけるよう、広報などの研究開発に努め、積極的に情報発信に取り組む。</li> <li>● 多摩六都科学館の特徴的な活動内容や価値を国内外にも周知させていくことに努める。</li> <li>● 市民調査や分析にも力を入れ、利用者や地域の皆さんのニーズを把握した上で活動を企画実施し、その効果の分析活動も実施する。</li> <li>● ロクトの支援者（ファン）を増やしていくためのしくみ・受け皿などを整備する。</li> <li>● アクセス改善に継続的に努める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期的に安定的な財政運営が実現できるよう、科学館の関係者と協力し合いながら、課題解決に向けたしくみづくりや方策検討に取り組む。</li> <li>● 外部資金の導入（寄附金、助成金、補助金の確保の他、賛助組織など）の他、財産の有効活用など創意工夫をしながら財源確保策を検討・実現していく。</li> <li>● 施設・設備の老朽化対策と長寿命化を図るとともに、常に魅力的な施設であるために展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう民間事業者の新たな活用方策も検討しながら、計画的な施設保全に取り組む。</li> <li>● 地域連携・協働体制は、多摩六都科学館組合・指定管理者などそれぞれの立場で、ともに作りあげていくしくみの強化を図る。</li> </ul>

事業計画

地域拠点事業

パブリック・リレーションズ

経営管理計画

財政計画・体制整備